

1. 共通の工種

1-1 圧密・排水工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. サンドドレーン	位置	自動位置決め装置又はトランシット及び光波測距儀により測定	移動毎及び監督職員の指示による。	1 c m	管理図に測定結果を記入し提出	±10 c m	自動位置決め装置の作動状況が確認されていれば不要
	天端高 先端深度	打込記録の確認	全 数	10 c m	打込記録紙及び管理表を作成して提出	天端高 +規定しない -0 先端深度 +0 -規定しない	+ ; 設計値より浅い(高い)ことをいう。 - ; 設計値より深い(低い)ことをいう。 () は陸上。
	砂の投入量	打込記録の確認	全 数	0. 1 m ³	打込記録紙に砂の圧入量を記入し提出		
2. 敷砂均し	延長	スチールテープ、間縄、光波測距儀等により測定	施工完了後	10 c m	管理図に延長を記入し提出	+規定しない -0	様式・出来形1-1-2 参照
	天端高 天端幅 法面勾配	陸上部；スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下	天端高1 c m 天端幅10 c m	管理図に天端高、法肩、法尻、天端幅及び法面勾配を記入し提出	天端高 ±30 c m 天端幅、法面勾配は〈特〉による。	
水中部；スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定		測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	10 c m				
3. 載荷土砂	延長	スチールテープ、間縄等により測定	施工完了後	10 c m	管理図に延長を記入し提出	+規定しない -0	
	天端高 天端幅 法面勾配	陸上部；スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下	天端幅10 c m 天端高1 c m	管理図に天端高、法肩、法尻、天端幅及び法面勾配を記入し提出	天端高 ±50 c m 天端幅、法面勾配は〈特〉による。	
		水中部；スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	10 c m			
4. ペーパードレーン	位置	自動位置決め装置又はトランシット及び光波測距儀により測定	移動毎及び監督職員の指示による。	1 c m	管理図に測定結果を記入し提出	±10 c m	自動位置決め装置の作動状況が確認されていれば不要

1-1 圧密・排水工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
4. ペーパードレーン	天端高 先端深度	打込記録の確認	全数	10cm	打込記録紙及び管理表を作成して提出	天端高 +規定しない -0 先端深度 +0 -規定しない	+;設計値より浅い(高い)ことをいう。 -;設計値より深い(低い)ことをいう。 ()は陸上。
	ドレーン材の打込長	打込記録の確認	全数	10cm	打込記録紙に打込長を記入し提出		
5. グラベルマット	延長	スチールテープ、間縄、光波測距儀等により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提出	+規定しない -0	様式・出来形1-1-2参照
	天端高 天端幅 法面勾配	陸上部;スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下	天端高1cm 天端幅10cm	管理図に天端高、法肩、法尻、天端幅及び法面勾配を記入し提出	天端高 ±30cm 天端幅、法面勾配は(特)による。	
		水中部;スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	10cm			
6. グラベルドレーン	位置	自動位置決め装置又はトランシット及び光波測距儀により測定	移動毎及び監督職員の指示による。	1cm	管理図に測定結果を記入し提出	±10cm	自動位置決め装置の作動状況が確認されていれば不要
	天端高 先端深度	打込記録の確認	全数	10cm	打込記録紙及び管理表を作成して提出	天端高 +規定しない -0 先端深度 +0 -規定しない	+;設計値より浅い(高い)ことをいう。 -;設計値より深い(低い)ことをいう。 ()は陸上。
	碎石の投入量	打込記録の確認	全数	0.1m ³	打込記録紙に碎石の投入量を記入し提出		

1-2 締固工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. ロッドコンパクション	位置	自動位置決め装置又はトランシット及び光波測距儀等により測定	移動毎及び監督職員の指示による。	10cm	管理図に測定結果を記入し提出	±10cm	自動位置決め装置の作動状況が確認されていれば不要。
	充填材の投入量			1.0m ³	測定記録等の提出		

1-2 締固工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. ロッドコンパクション	天端高	打込記録の確認	全 数	10 c m	打込記録の提出	天端高 +規定しない -0	
	先端深度	打込記録の確認	全 数	10 c m	打込記録の提出	先端深度 +0 -規定しない	+ ; 設計値より浅い (高い) ことをいう。 - ; 設計値より深い (低い) ことをいう。 () は陸上。
2. サンドコンパクションパイル	位 置	自動位置決め装置又はトランシット及び光波測距儀により測定	移動毎及び監督職員の指示による。	1 c m	管理図に測定結果を記入し提出	±10 c m	様式・出来形1-2-2 参照 自動位置決め装置の作動状況が確認されていれば不要
	天端高 先端深度	打込記録の確認	砂杭全数	10 c m	打込記録紙及び管理表を作成して提出	天端高 +規定しない -0 先端深度 +0 -規定しない	+ ; 設計値より浅い (高い) ことをいう。 - ; 設計値より深い (低い) ことをいう。 () は陸上。
	砂の投入量	打込記録の確認	砂杭全数	0.1m ³	打込記録紙に砂の圧入量を記入し提出		
	盛上り量	レベル、音響測深機又はレッドにより測定	完了後 測線・測点間隔は (特) による。	10 c m	盛上り量の平面図を作成し提出		
3. 盛上土砂撤去	撤去量	レベル、音響測深機又はレッドにより測定	完了後 測線・測点間隔は (特) による。	10 c m	撤去量の平面図を作成し提出		
4. 敷砂均し							1-1-2. 敷砂均しを適用する。

1-3 固化工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 深層混合処理杭	位 置	自動位置決め装置又はトランシット及び光波測距儀により測定	海上施工は改良杭全数。 陸上施工は (特) による。	1cm	管理図に測定結果を記入し提出	トランシット及び光波測距儀等により測定する場合は (特) による。	様式・出来形1-3-1 参照 自動位置決め装置の作動状況が確認されていれば不要

1-3 固化工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 深層混合処理杭	鉛直度 接合	トランシット及び傾斜計等により処理機の鉛直度を測定	改良杭全数 深度方向に2~5m程度毎に測定（引抜きと貫入時）	1分又は1cm	改良杭先端部の軌跡図を作成し提出	〈特〉による。	陸上施工は除く。
	天端高 先端深度	深度計、ワイヤー繰出長さ、潮位計、乾舷及び処理機等により確認	改良杭全数	1cm	打込記録紙又は打込記録データに天端高、先端深度を記入し管理表を提出	天端高 +規定しない -0 先端深度 +0 -規定しない	+；設計値より浅い（高い）ことをいう。 -；設計値より深い（低い）ことをいう。 （ ）は陸上。
	固化材吐 出量	流量計等により固化材のm当りの吐出量を確認	改良杭全数	10または1t	打込記録紙又は打込記録データに固化材吐出量を記入し提出		
	盛上り量	音響測深機又はレッドにより測定	改良前、改良後	1cm	盛上り量の図面を作成し提出		
2. 敷砂均し							1-1-2. 敷砂均しを適用する。
3. 事前混合処理	延長	スチールテープ、間縄等により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提出	+規定しない -0	
	天端高、天 端幅	陸上部：スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下	天端幅10cm 天端高1cm	管理図に天端高、天端幅を記入し提出	〈特〉による。	
		水中部：スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	10cm			
4. 表層固化処理	延長	スチールテープ、間縄等により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提出	+規定しない -0	
	天端高、天 端幅、厚さ	スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下	天端幅10cm 天端高・厚さ1cm	管理図に天端高、天端幅、厚さを記入し提出	〈特〉による。	

1-4 洗掘防止工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 洗掘防止	敷設位置	スチールテープ、間縄等により測定	始、終端及び変化する箇所毎並びに20mに1箇所以上	10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	〈特〉による。	様式・出来形1-4-1 参照 アスファルトマット、繊維系マット、ゴムマット、合成樹脂系マット
	重ね幅	スチールテープ等により測定	1枚に2点	1cm	測定表及び敷設図を作成し提出		
	延長	スチールテープ、間縄等により測定	マットの中心を区間毎及び全長	10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	+規定しない -10cm	

1-5 中詰工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 砂・石材中詰	天端高	レベル、スチールテープ等によりケーソン天端面からの下りを測定	1室につき1箇所(中心)	1cm	管理表を作成し提出	陸上±5cm 水中±10cm	様式・出来形1-5-1 参照
2. コンクリート中詰 3. プレパックドコンクリート中詰	天端高	レベル、スチールテープ等によりケーソン天端面からの下りを測定	1室につき1箇所(中心)	1cm	管理表を作成し提出	陸上±3cm 水中±5cm	

1-6 蓋コンクリート工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 蓋コンクリート	天端高	レベル、スチールテープ等により測定	1室につき1箇所(中心)	1cm	管理表を作成し提出	陸上±3cm 水中±5cm	様式・出来形1-6-1 参照

1-7 蓋ブロック工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 蓋ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1cm	管理表を作成し提出	幅 +2cm, -1cm 高さ +2cm, -1cm 長さ +2cm, -1cm 壁厚 ±1cm	
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1cm	管理表を作成し提出		

1-7 蓋ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
2. 蓋ブロック据付	蓋ブロック据付（天端高）	レベル、スチールテープ等により測定	1室につき1箇所	1 c m	管理表を作成し提出		

1-8 鋼矢板工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 先行掘削	位 置	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	全 数	10 c m	測定表を作成し提出	〈特〉による。	
	掘削長 掘削深度	レベル等により測定	全 数	10 c m	測定表を作成し提出	〈特〉による。	＋：設計値より浅いことをいう －：設計値より深いことをいう
	掘削径	スチールテープ等により測定（水中の場合はケーシング径等により確認）	全数（水中の場合は適宜）	10 c m	測定表を作成し提出	〈特〉による。	
2. 鋼矢板							様式・出来形1-8-2 参照
イ) 鋼矢板	打込記録	〈共〉第4編4-5-3-13、2(10)	40枚に1枚		打込記録を提出		
	矢板壁延長	スチールテープ等により測定（天端付近）	施工中適宜 打込完了時	1 c m	管理表を作成し提出	+矢板1枚幅 -0	
	矢板法線に対する出入り	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	打込完了時、20枚に1枚及び計画法線の変化点	1 c m	管理表を作成し提出	±10 c m	全数を目視で確認
	矢板法線に対する傾斜	トランシット、光波測距儀、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、20枚に1枚及び計画法線の変化点	1/1000	管理表を作成し提出	10/1000以下	
	矢板法線方向の傾斜		施工中適宜 打込完了時（両端部）	1 c m 1/1000	管理表を作成し提出	上下の差が矢板1枚幅未満 10/1000以下	
	矢板天端高	レベルにより測定	打込完了時、20枚に1枚	1 c m	管理表を作成し提出	±10 c m	全数を目視で確認
	矢板継手部の離脱	観察（水中部は潜水士）	全 数		観察結果を報告		

1-8 鋼矢板工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
ロ) 鋼管矢板	打込記録	(共) 第4編4-5-3-13、 2(10)	20本に1本		打込記録を提出		
	矢板壁延長	スチールテープ等により 測定(天端付近)	施工中適宜 打込完了時	1 c m	管理表を作成し提出	<特>による。	
	矢板法線に対する出入り	トランシット、光波測距 儀、スチールテープ等により 測定	打込完了時、10本に1本 及び計画法線の変化点	1 c m	管理表を作成し提出	±10 c m	全数を目視で確認
	矢板法線に対する傾斜	トランシット、光波測距 儀、下げ振り、傾斜計等 により測定	打込完了時、全数確認 後10本に1本及び変化点	1/1000	管理表を作成し提出	10/1000以下	
	矢板法線方向の傾斜		施工中適宜 打込完了時(両端部)	1 c m 1/1000	管理表を作成し提出	上下の差が矢板1枚 幅未満 10/1000以下	
	矢板天端高	レベルにより測定	打込完了時、10本に1本	1 c m	管理表を作成し提出	±10 c m	全数を目視で確認
	矢板継手部の離脱	観察(水中部は潜水士)	全 数		観察結果を報告		

1-9 控 工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 控鋼矢板	打込記録	(共) 第4編4-5-3-14、 2(10)	40枚に1枚		打込記録を提出		様式・出来形1-8-2 参照
	矢板壁延長	スチールテープ等により 測定(天端付近)	施工中適宜 打込完了時	1 c m	管理表を作成し提出	+矢板1枚幅 -0	
	矢板法線に対する出入り	トランシット、光波測距 儀、スチールテープ等により 測定	打込完了時、20枚に1枚 及び計画法線の変化点	1 c m	管理表を作成し提出	±10 c m	全数を目視で確認
	矢板法線に対する傾斜	トランシット、光波測距 儀、下げ振り、傾斜計等 により測定	打込完了時、20枚に1枚 及び計画法線の変化点	1/1000	管理表を作成し提出	10/1000以下	
	矢板法線方向の傾斜		施工中適宜 打込完了時(両端部)	1 c m 1/1000	管理表を作成し提出	上下の差が矢板1枚 幅未満 10/1000以下	

1-9 控 工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 控鋼矢板	矢板天端高	レベルにより測定	打込完了時、20枚に1枚	1 c m	管理表を作成し提出	±10 c m	全数を目視で確認
	矢板継手部の離脱	観察（水中部は潜水士）	全 数		観察結果を報告		
2. 控鋼杭	打込記録	〈共〉第4編4-5-3-14、3(8)	20本に1本		打込記録を提出		様式・出来形1-10-2 参照
	杭頭中心位置	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	打込完了時、全数	1 c m	管理表を作成し提出	10 c m以下	
	杭天端高	レベルにより測定	打込完了時、全数	1 c m	管理表を作成し提出	±5 c m	
	杭の傾斜	トランシット、光波測距儀、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、全数	1°	管理表を作成し提出	直杭2° 以下 斜杭3° 以下	
3. プレキャストコンクリート控壁	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外後全数	1 c m	管理表を作成し提出	幅 +2cm, -1cm 高さ+2cm, -1cm 長さ+2cm, -1cm 壁厚±1cm	
	法線に対する出入	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最下段、最上段）	1 c m	管理表を作成し提出	±5 c m	
	隣接ブロックとの間隔	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最下段、最上段）	1 c m	管理表を作成し提出	〈特〉による。	
	延長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上（最上段のみ）	1 c m	管理表を作成し提出		
	天端高	レベル等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所	1 c m	管理表を作成し提出		
4. 場所打コンクリート控壁	天端高又は厚さ	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	1スパン3箇所	1 c m	測定表を作成し提出	±2 c m	天端高又は厚さの管理項目の選定は〈特〉による。
	天端幅	スチールテープ等により測定	1スパン3箇所	1 c m	測定表を作成し提出	±2 c m	
	延長	スチールテープ等により測定	法線上	1 c m	測定表を作成し提出	+規定しない -0	
	法線に対する出入	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	1スパン2箇所	1 c m	測定表を作成し提出	±3 c m	

1-9 控 工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
5. 腹 起	取付高さ	レベル等により測定	取付完了時、両端（継手毎）全数	1 c m	管理表を作成し提出		様式・出来形1-9-5 参照
	継手位置	観 察	取付完了時、全数		観察結果を報告		
	ボルトの取付け	観 察	取付完了時、全数		観察結果を報告		
	矢板と腹起しとの密着度	観 察	タイロッド毎、全数		観察結果を報告		
6. タイ材							
イ) タイロッド取付	取付け高さ及び水平度	レベル等により測定	締付後両端、全数	1 c m	管理表を作成し提出		様式・出来形1-9-6 参照 腹起しに取り付ける場合は不要
	矢板法線に対する取付角度及び取付間隔	スチールテープ等により測定	締付後両端、全数	1 c m	管理表を作成し提出		
	定着ナットの締付け	観 察	全 数		観察結果を報告	ねじ山が3つ山以上突き出していること。	
	ターンバックルのねじ込み長さ	観 察	全 数	1 c m	観察結果を報告	定着ナットの高さ以上	
	リングジョイントのコンクリートへの埋込み	観 察	全 数		観察結果を報告		
	支保材の天端高	レベル等により測定	適 宜	1 c m	管理表を作成し提出		
	ロ) タイワイヤー取付	取付高さ	レベル等により測定	締付後両端、全数	1 c m	管理表を作成し提出	
矢板法線に対する取付角度及び取付間隔		スチールテープ等により測定	締付後両端、全数	1 c m	管理表を作成し提出		
定着ナットの締付け		観 察	全 数		観察結果を報告	ねじ山が3つ山以上突き出していること。	
定着具端部栓の取付け		観 察	全 数		観察結果を報告		

1-9 控工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
ロ) タイワイヤー取付	トランペットシースの取付	観察	全数		観察結果を報告		

1-10 鋼杭工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 先行掘削							1-8-1. 先行掘削を適用する。
2. 鋼杭	打込記録	(共) 第4編4-5-3-15、2(9)	20本に1本		打込記録を提出		様式・出来形1-10-2 参照
	杭頭中心位置	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	打込完了時、全数	1cm	管理表を作成し提出	10cm以下	
	杭天端高	レベル等により測定	打込完了時、全数	1cm	管理表を作成し提出	±5cm	
	杭の傾斜	トランシット、光波測距儀、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、全数	1°	管理表を作成し提出	直杭2°以下 斜杭3°以下	

1-11 コンクリート杭工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. コンクリート杭	打込記録	JIS A 7201 記録	支持杭は全数、支持杭以外は20本に1本		JIS A 7201 付表5 打込み工法記録を作成し提出		
	杭頭中心位置	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	打込完了時、全数	1cm	管理表を作成し提出	10cm以下	
	杭天端高	レベル等により測定	打込完了時、全数	1cm	管理表を作成し提出	±5cm	
	杭の傾斜	トランシット、光波測距儀、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、全数	1°	管理表を作成し提出	直杭2°以下 斜杭3°以下	

1-12 防食工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 電気防食	取付位置	目視（承諾された図面より確認）潜水士による。	取付完了後、全数	<特>による	確認結果を提出		様式・出来形1-12-1 参照
	電位測定	測定機器による。	取付完了後、測定端子取付箇所毎	1mV	測定表を作成し提出	飽和かんこう電極基準；-770mV 海水塩化銀基準；-780mV 又は飽和硫酸銅電極基準；-850mV	
2. FRPモルタル被覆	取付高さ（被覆範囲）	レベル等により測定	完了後、保護カバーの上端又は下端高さ（被覆範囲の確認）鋼管杭；全数 矢板；1打設3箇所以上	<特>による	測定表を作成し提出	<特>による	測定密度における矢板の1打設とは、コンクリートモルタルの配合1回当たりの打設を示す。
3. ペトラタム被覆	取付高さ（被覆範囲）	レベル等により測定	完了後、保護カバーの上端又は下端高さ（被覆範囲の確認）鋼管杭；全数 矢板；監督員の指示による。	<特>による	測定表を作成し提出	<特>による	
4. コンクリート被覆	高さ（被覆範囲）	レベル等により測定	完了後、上端・下端高さ（被覆範囲の確認）鋼管杭；全 数 矢板；1打設3箇所以上	<特>による	測定表を作成し提出	<特>による	測定密度における矢板1打設とは、コンクリートモルタルの配合1回当たりの打設を示す。
5. 防食塗装	高さ（被覆範囲）	レベル等により測定	完了後、上端・下端高さ（被覆範囲の確認）鋼管杭；全 数 矢板；50㎡に1箇所の以上	<特>による	測定表を作成し提出	<特>による	

1-13 コンクリート舗装工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 下層路盤	高 さ	レベル等により測定	舗装は中心及び両端部の3点を延長20mに1箇所、道路舗装は中心及び両端部の3点を延長40mに1箇所	1 c m	測定表を作成し提出	±4 c m	様式・出来形1-13-1参照
	厚 さ	レベル等により測定	舗装は1,000m ² に1箇所、道路舗装は〈特〉による。	1 m m	測定表を作成し提出	+規定しない -4.5 c m	
	幅	スチールテープ、光波測距儀等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	1 c m	測定表を作成し提出	+規定しない -5 c m	
	延 長	スチールテープ、光波測距儀等により測定	両端2箇所	1 c m	測定表を作成し提出	+規定しない -0	
2. 上層路盤	厚 さ	レベル等により測定	舗装は1,000m ² に1箇所、道路舗装は〈特〉による。	1 m m	測定表を作成し提出	+規定しない -2.5 c m	
	幅	スチールテープ、光波測距儀等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	1 c m	測定表を作成し提出	+規定しない -5 c m	
	延 長	スチールテープ、光波測距儀等により測定	両端2箇所	1 c m	測定表を作成し提出	+規定しない -0	

1-13 コンクリート舗装工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
3. コンクリート舗装版	厚さ	レベル等により測定	舗装は中心及び両端部の3点を延長20mに1箇所、道路舗装は中心及び両端部の3点を延長40mに1箇所	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない -1cm	コンクリート版の厚さ、その他を確認するため、監督職員が必要と認めるときは、コアを採取する。
	幅	スチールテープ、光波測距儀等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	1mm	測定表を作成し提出	+規定しない -2.5cm	
	延長	スチールテープ、光波測距儀等により測定	両端2箇所	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない -0	
	平坦性	3mプロフィールメータにより測定	各レーン毎全延長	1mm	記録紙及び管理表を作成し提出	機械舗設の場合 2mm以下 人力舗設の場合 3mm以下	

1-14 アスファルト舗装工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 下層路盤	高さ	レベル等により測定	舗装は中心及び両端部の3点を延長20mに1箇所、道路舗装は中心及び両端部の3点を延長40mに1箇所	1cm	測定表を作成し提出	±5cm	
	厚さ	レベル等により測定	舗装は1,000m ² に1箇所、道路舗装は〈特〉による。	1mm	測定表を作成し提出	+規定しない -4.5cm	
	幅	スチールテープ、光波測距儀等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない -5cm	
	延長	スチールテープ、光波測距儀等により測定	両端2箇所	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない -0	

1-14 アスファルト舗装工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
2. 上層路盤	厚さ	レベル等により測定	舗装は1,000m ² に1箇所、道路舗装は〈特〉による。	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない -3cm	
	幅	スチールテープ、光波測距儀等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない -5cm	
	延長	スチールテープ、光波測距儀等により測定	両端2箇所	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない -0	
3. 基層	厚さ	抜き取りコアをスチールテープ等で測定	1,000m ² に1箇所	1mm	測定表を作成し提出	+規定しない -1.2cm	様式・出来形1-14-3 参照
	幅	スチールテープ、光波測距儀等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	1mm	測定表を作成し提出	+規定しない -2.5cm	
	延長	スチールテープ、光波測距儀等により測定	両端2箇所	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない -0	
4. 表層	厚さ	抜き取りコアをスチールテープ等で測定	1,000m ² に1箇所	1mm	測定表を作成し提出	+規定しない -9mm	様式・出来形1-14-3 参照
	幅	スチールテープ、光波測距儀等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	1mm	測定表を作成し提出	+規定しない -2.5cm	
	延長	スチールテープ、光波測距儀等により測定	両端2箇所	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない -0	
	平坦性	3mプロフィールメータにより測定	各レーン毎全延長	1mm	記録紙及び管理表を作成し提出	2.4mm以下	

1-15 植生工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 張芝 2. 筋芝	材料の使用数量	使用数量表等により確認	施工完了後		使用数量表等を作成し提出		
	長さ、幅(面積)	スチールテープ等により測定	施工完了後	10cm (0.1m ²)	管理表を作成し提出	+規定しない -0	
	植生状況	観察	施工完了後、区域全体		観察結果を報告		
3. 播種 4. 種子吹付け	材料の使用数量	使用数量表等により確認	施工完了後		使用数量表等を作成し提出		
	長さ、幅(面積)	スチールテープ等により測定	施工完了後	10cm (0.1m ²)	管理表を作成し提出	+規定しない -0	
	植生状況	〈特〉による。	〈特〉による。		〈特〉による。	〈特〉による。	

1-15 植生工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
5. 植 栽	材料の使用数量	使用数量表等により確認	搬入時、全数		使用数量表等を作成し提出		
	樹高、枝張り幅、幹周り	スチールテープ等により測定	種類毎、搬入後適宜	樹高、枝張り幅 10 c m 幹周り 1 c m	管理表を作成し提出	+規定しない -0	
	植付け状況	観 察	施工完了後、全本数		観察結果を報告		

2. 土捨工 管理基準なし

3. 海上地盤改良工

3-1 床掘工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. ポンプ床掘 2. グラブ床掘 3. 硬土盤床掘 4. 砕岩床掘 5. バックホウ床掘	水 深 (底面)	音響測探機、レッド又はレベル等により測定	〈特〉による。	10 c m	平面図に実測値を記入し提出	±30 c m又は〈特〉による。	断面図は監督職員が指示したとき作成し提出
		音響測探機、レッド又はレベル等により測定	〈特〉による。	10 c m	平面図に実測値を記入し提出	外側2m(法面に直角) 内側30 c m(法面に直角)又は〈特〉による。	
	(法面)	音響測探機、レッド又はレベル等により測定	〈特〉による。	10 c m	平面図に実測値を記入し提出	外側2m(法面に直角) 内側30 c m(法面に直角)又は〈特〉による。	
		音響測探機、レッド又はレベル等により測定	〈特〉による。	10 c m	平面図に実測値を記入し提出	外側2m(法面に直角) 内側30 c m(法面に直角)又は〈特〉による。	
		音響測探機、レッド又はレベル等により測定	〈特〉による。	10 c m	平面図に実測値を記入し提出	外側2m(法面に直角) 内側30 c m(法面に直角)又は〈特〉による。	

3-2 置換工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 置換材均し	延 長	スチールテープ、間縄、光波測距儀等により測定	施工完了後	10 c m	管理図に延長を記入し提出	+規定しない -0	様式・出来形3-2-1 参照
		陸上部；スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	測線間隔20m以下測点間隔10m以下	天端高1 c m 天端幅10 c m	管理図に天端高、法肩、法尻、天端幅及び法面勾配を記入し提出	天端高 ±50 c m 又は〈特〉による 天端幅、法面は〈特〉による。	
	水中部；スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	測線間隔20m以下測点間隔20m以下	10 c m				

3-3 圧密・排水工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
圧密・排水工							1-1 圧密・排水工を適用する。

3-4 締固工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
締固工							1-2 締固工を適用する。

3-5 固化工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
固化工							1-3 固化工を適用する。

4. 基礎工

4-1 基礎盛砂工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 盛砂均し	延長	スチールテープ、間縄、光波測距儀等により測定	施工完了後	10 c m	管理図に延長を記入し提出	+規定しない -0	様式・出来形1-1-2 参照
	天端高 天端幅 法面勾配	スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	10 c m	管理図に天端高、法肩、法尻、天端幅及び法面勾配を記入し提出	天端高 ±30 c m 天端幅、法面勾配は〈特〉による。	

4-2 洗掘防止工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
洗掘防止工							1-4 洗掘防止工を適用する。

4-3 基礎捨石工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 基礎捨石 (均しを行わない面)	天端高	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線及び測点間隔は10m以下	10 c m	出来形図を作成し提出	〈特〉による。	
	法 面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線間隔は10m以下、測点3点以上、但し、マウンド厚2m以下の場合 は2点以上	10 c m	出来形図を作成し提出	〈特〉による。	
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下	10 c m	出来形図を作成し提出	〈特〉による。	
	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	法線上又は監督職員の指示による。	10 c m	出来形図を作成し提出	〈特〉による。	
2. 捨石本均し	天端高	レベル又は〈特〉により測定	測線及び測点間隔は10m以下	1 c m	出来形図を作成し提出	±5 c m	様式・出来形4-3-2 参照
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下	10 c m	出来形図を作成し提出	+規定しない -10 c m	
	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	法線上又は監督職員の指示による。	10 c m	出来形図を作成し提出	+規定しない -10 c m	
3. 捨石荒均し	天端高	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線及び測点間隔は10m以下	10 c m	出来形図を作成し提出	注)-1 ±50 c m、岸壁前面+0、-20 c m又は〈特〉による。 異形ブロック据付面（整積）の高さ（法面に直角）±30 c m 又は〈特〉による。	注)-1 係留施設・護岸・土留壁等の背面については、荒均しを適用しない。
	法 面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線間隔は10m以下、測点3点以上、但し、マウンド厚2m以下の場合 は2点以上	10 c m	出来形図を作成し提出	注)-2 ±50 c m（法面に直角） 異形ブロック据付面（整積）の高さ（法面に直角）±30 c m 又は〈特〉による。	注)-2 係留施設・護岸・土留壁等の背面については、荒均しを適用しない。
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下	10 c m	出来形図を作成し提出	+規定しない -10 c m	
	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	法線上又は監督職員の指示による。	10 c m	出来形図を作成し提出	+規定しない -10 c m	

4-4 基礎ブロック工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 基礎ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1cm	管理表を作成し提出	幅 +2cm, -1cm 高さ+2cm, -1cm 長さ+2cm, -1cm 壁厚±1cm	様式・出来形6-1 参照 ブロック(方塊)
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1cm	管理表を作成し提出		
	型枠形状寸法(異形ブロック)	観察	型枠搬入後適宜		観察結果を報告		
	ブロック外觀(異形ブロック)	観察	全数		観察結果を報告		
2. 基礎ブロック据付	法線に対する出入	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所(最下段、最上段)	1cm	管理表を作成し提出	±5cm	
	隣接ブロックとの間隔	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所(最下段、最上段)	1cm	管理表を作成し提出	ブロック(方塊) 3cm以下	
	延長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上(最上段のみ)	1cm	管理表を作成し提出		
	天端高	レベル等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所(最上段のみ)	1cm	管理表を作成し提出		

4-5 基礎栗石工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 基礎栗石均し	天端高	レベル又は<特>により測定	測線及び測点間隔は10m以下	1cm	均し出来形図を作成し提出	±5cm	
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下	10cm	均し出来形図を作成し提出	+規定しない -10cm	
	延長	スチールテープ、間縄等により測定	法線上	10cm	均し出来形図を作成し提出	+規定しない -0	

5. 本土工（ケーソン式）

5-1 ケーソン製作工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. ケーソン製作	摩擦増大用 マット敷設 位置	スチールテープ等により 確認	始・終端及び変化する 箇所毎	10 c m	測定表及び敷設図 を作成し提出	〈特〉による。	
	高 さ	スチールテープ等により 測定	完成時、四隅	1 c m	管理表を作成し提 出	+3 c m -1 c m	様式・出来形5-1-1 参 照
	幅	スチールテープ等により 測定	各層完成時に中央部及 び底版と天端は両端	1 c m	管理表を作成し提 出	+3 c m -1 c m	
	長 さ	スチールテープ等により 測定	各層完成時に中央部及 び底版と天端は両端	1 c m	管理表を作成し提 出	+3 c m -1 c m	
	壁 厚	スチールテープ等により 測定	各層完成時、各壁1箇所	1 c m	管理表を作成し提 出	±1 c m	
	底版厚さ	レベル、スチールテープ 等により測定	底版完成時、各室中央 部1箇所	1 c m	管理表を作成し提 出	+3 c m -1 c m	
	フーチング 高さ	スチールテープ等により 測定	底版完成時、四隅	1 c m	管理表を作成し提 出	+3 c m -1 c m	
	対角線	スチールテープ等により 測定	底版完成時及び完成時	1 c m	管理表を作成し提 出	±5 c m	
	バラスト	レベル、レッド等により 測定	各室中央部1箇所	1 c m	管理表を作成し提 出	砕石・砂 ±10 c m コンクリート ±5 c m	投入量管理

5-2 ケーソン進水据付工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. ケーソン進水据 付	法線に対す る出入	トランシット及びスチー ルテープ等により測定	据付完了後、両端2箇所	1 c m	管理表を作成し提 出	防波堤 ケーソン質量 2,000t未満±20 c m、2,000t以上± 30 c m 岸 壁 ケーソン質量 2,000t未満±10 c m、2,000t以上± 15 c m	様式・出来形5-2-1 参 照

5-2 ケーソン進水据付工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. ケーソン進水据付	据付目地間隔	スチールテープ等により測定	据付完了後、天端2箇所	1 c m	管理表を作成し提出	防波堤 ケーソン質量 2,000t未満 20cm以下 2,000t以上 30cm以下 岸 壁 ケーソン質量 2,000t未満 10cm以下 2,000t以上 20cm以下	
	天端高さ	レベルにより測定	据付完了後、四隅 中詰完了時、四隅	1 c m	管理表を作成し提出		
	延長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上	1 c m	管理表を作成し提出		

5-3 中詰工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
中詰工							1-5 中詰工を適用する。

5-4 蓋コンクリート工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
蓋コンクリート工							1-6 蓋コンクリート工を適用する。

5-5 蓋ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
蓋ブロック工							1-7 蓋ブロック工を適用する。

6. 本体工（ブロック式）

6-1 本体ブロック製作工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 本体ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1 c m	管理表を作成し提出	幅 +2cm, -1cm 高さ+2cm, -1cm 長さ+2cm, -1cm 壁厚±1cm	様式・出来形6-1 参照 L型ブロック セルラーブロック ブロック(方塊)
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1 c m	管理表を作成し提出		様式・出来形6-1 参照 セルラーブロック ブロック(方塊)
	型枠形状寸法(異形ブロック)	観 察	型枠搬入後適宜		観察結果を報告		
	ブロック外観(異形ブロック)	観 察	全 数		観察結果を報告		

6-2 本体ブロック据付工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 本体ブロック据付	法線に対する出入	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所(最下段、最上段)	1 c m	管理表を作成し提出	±5 c m	
	隣接ブロックとの間隔	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所(最下段、最上段)	1 c m	管理表を作成し提出	L型ブロック セルラーブロック 5 c m以下 直立消波ブロック ブロック(方塊) 3 c m以下	
	延 長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上(最上段のみ)	1 c m	管理表を作成し提出		
	天端高	レベル等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所(最上段のみ)	1 c m	管理表を作成し提出		

6-3 中詰工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
中詰工							1-5 中詰工を適用する。

6-4 蓋コンクリート工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
蓋コンクリート工							1-6 蓋コンクリート工を適用する。

6-5 蓋ブロック工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
蓋ブロック工							1-7 蓋ブロック工を適用する。

6-6 前面壁ブロック工、張りブロック工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. ブロック製作	幅、高さ、長さ	スチールテープ等により測定	型枠取外し後10個に1個以上測定	1 c m	管理表を作成し提出	幅 +2c m, -1c m 高さ+2c m, -1c m 長さ+2c m, -1c m	様式・出来形13-3-1 参照
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数10個に1個以上測定	1 c m	管理表を作成し提出		
2. ブロック据付	法線に対する出入	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき1箇所	1 c m	管理表を作成し提出	±5 c m	
	隣接ブロックとの間隔	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所	1 c m	管理表を作成し提出	3 c m以下	
	延長	スチールテープ等により測定	両端2箇所(上段、下段)	1 c m	管理表を作成し提出	+規定しない -0	前面壁は1箇所
	天端高	レベル等により測定	据付後測線につき3箇所(下段、中段、上段)	1 c m	管理表を作成し提出	<特>による	前面壁は測線につき1箇所

7. 本土工 (場所打式)

7-1 場所打コンクリート工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
場所打コンクリート工							
イ) 防波堤	天端高又は厚さ	レベル等により測定	天端面は1スパン4箇所以上 パラペット頂部は1スパン2箇所以上	1 c m	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合は±2 c m 天端幅10mを超える場合は+5 c m - 2 c m	様式・出来形14-1 参照 天端高さ又は厚さの管理項目の選定は〈特〉による。

7-1 場所打コンクリート工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
イ) 防波堤	天端幅	スチールテープ等により測定	1スパン3箇所	1cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合 は±3cm 天端幅10mを超える 場合は+5cm- 3cm	
	延長	スチールテープ等により測定	法線上	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない -0	
	法線に対する 出入	トランシット、スチール テープ等により測定	1スパン2箇所	1cm	測定表を作成し提出	±5cm 又は〈特〉によ る。	
ロ) 岸壁	天端高又は 厚さ	レベル、スチールテープ 等により測定	1スパン3箇所	1cm	測定表を作成し提出	±2cm	天端高又は厚さの管理 項目の選定は〈特〉に よる。
	天端幅	スチールテープ等により 測定	1スパン3箇所	1cm	測定表を作成し提出	±2cm	
	延長	スチールテープ等により 測定	法線上	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない -0	
	法線に対する 出入	トランシット、スチール テープ等により測定	1スパン2箇所	1cm	測定表を作成し提出	±3cm	
	防舷材パ ッド	スチールテープ等により 測定	スパン毎	1cm	測定表を作成し提出		

7-2 水中コンクリート工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
水中コンクリート工							7-1 場所打コンクリ ート工を適用する。

7-3 プレパックドコンクリート工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
プレパックドコンク リート工							7-1 場所打コンクリ ート工を適用する。

7-4 水中不分離性コンクリート工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
水中不分離性コンク リート工							7-1 場所打コンクリ ート工を適用する。

7-5 止壁工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
止壁コンクリート	天端高又は厚さ	レベル、スチールテープ等により測定	測点毎に1箇所 測点間隔は10m以下	1cm	測定表を作成し提出	±2cm	天端高又は厚さの管理項目の選定は<特>による。
	天端幅	スチールテープ等により測定	測点毎に1箇所 測点間隔は10m以下	1cm	測定表を作成し提出	±2cm	
	延長	スチールテープ等により測定	法線上	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない -0	

8. 本体工（捨石・捨ブロック式）

8-1 洗掘防止工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
洗掘防止工							1-4 洗掘防止工を適用する。

8-2 本体捨石工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
本体捨石工							4-3 基礎捨石工を適用する。

8-3 捨ブロック工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 捨ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1cm	管理表を作成し提出	幅 +2cm, -1cm 高さ+2cm, -1cm 長さ+2cm, -1cm 壁厚±1cm	様式・出来形6-1 参照 ブロック(方塊)
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1cm	管理表を作成し提出		
	型枠形状寸法 (異形ブロック)	観察	型枠搬入後適宜		観察結果を報告		
	ブロック外観 (異形ブロック)	観察	10個に1個以上測定		観察結果を報告		

8-3 捨ブロック工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
2. 捨ブロック据付	法線に対する出入	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最下段、最上段）	1cm	管理表を作成し提出	±5cm	
	隣接ブロックとの間隔	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最下段、最上段）	1cm	管理表を作成し提出	ブロック(方塊) 3cm以下	
	延長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上（最上段のみ）	1cm	管理表を作成し提出		
	天端高	レベル等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最上段のみ）	1cm	管理表を作成し提出		

8-4 場所打コンクリート工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
場所打コンクリート工	天端高	レベル等により測定	天端面は1スパン4箇所以上 パラペット頂部は1スパン2箇所以上	1cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合±2cm 天端幅10mを超える場合は+5cm-2cm	様式・出来形14-1 参照 天端高さの管理項目の選定は〈特〉による。
	天端幅	スチールテープ等により測定	1スパン3箇所	1cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合±3cm 天端幅10mを超える場合は+5cm-3cm	
	延長	スチールテープ等により測定	法線上	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない -0	
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	1スパン2箇所	1cm	測定表を作成し提出	±5cm 又は〈特〉による。	

9. 本体工（鋼矢板式）

9-1 鋼矢板工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
鋼矢板工							1-8 鋼矢板工を適用する。

9-2 控 工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
控 工							1-9 控工を適用する。

10. 本体工（コンクリート矢板式）

10-1 コンクリート矢板工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. コンクリート矢板	矢板壁延長	スチールテープ等により測定（天端付近）	施工中適宜 打込完了時	1 c m	管理表を作成し提出	+矢板1枚幅 -0	
	矢板法線に対する出入り	トランシット、スチールテープ等により測定	打込完了時、20枚に1枚及び計画法線の変化点	1 c m	管理表を作成し提出	〈特〉による。	全数を目視で確認
	矢板法線に対する傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、20枚に1枚及び計画法線の変化点	1/1000	管理表を作成し提出	〈特〉による。	
	矢板法線方向の傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	施工中適宜 打込完了時（両端部）	1 c m 1/1000	管理表を作成し提出	上下の差が矢板1枚幅未満 2/100以下	
	矢板天端高	レベルにより測定	打込完了時、20枚に1枚	1 c m	管理表を作成し提出	±5 c m	全数を目視で確認
	矢板継手部の離脱	観察（水中部は潜水士）	全 数		観察結果を報告		

10-2 控 工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
控 工							1-9 控工を適用する。

11. 本体工（鋼杭式）

11-1. 鋼杭工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
鋼杭工							1-10 鋼杭工を適用する。

12. 本体工（コンクリート杭式）

12-1 コンクリート杭工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
コンクリート杭工							1-11 コンクリート杭工を適用する。

13. 被覆・根固工

13-1 被覆石工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 被覆石 (均しを行わない面)	天端面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線及び測点間隔は10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	〈特〉による。	様式・出来形13-1-1 参照
2. 被覆石均し	法面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線間隔は10m以下、測点3点以上但し、マウンド厚2m以下の場合は2点以上	10cm	出来形図を作成し提出	±50cm、岸壁前面+0、-20cm又は〈特〉による。	
	天端面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線及び測点間隔は10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	±50cm(法面に直角)異形ブロック据付面(整積)の高さ(法面に直角)±30cm又〈特〉による。	
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	+規定しない -20cm	
	延長	スチールテープ、間縄等により測定	天端中心上又は監督職員の指示による。	10cm	出来形図を作成し提出	+規定しない -20cm	

13-2 被覆ブロック工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 被覆ブロック製作	型枠形状寸法(異形ブロック)	観察	型枠搬入後適宜		観察結果を報告		
	ブロック外観(異形ブロック)	観察	10個に1個以上		観察結果を報告		
2. 被覆ブロック据付	延長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上(最上段のみ)	10cm	管理表を作成し提出		

13-3 根固ブロック工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 根固ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1cm	管理表を作成し提出	幅 +2cm, -1cm 高さ +2cm, -1cm 長さ +2cm, -1cm 壁厚 ±1cm	様式・出来形13-3-1 参照
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1cm	管理表を作成し提出		

13-3 根固ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
2. 根固ブロック据付							13-2-2. 被覆ブロック据付を適用する。

14. 上部工

14-1 上部コンクリート工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
上部コンクリート工							
イ) 防波堤	天端高又は厚さ	レベル等により測定	天端面は1スパン4箇所以上 パラペット頂部は1スパン2箇所以上	1 c m	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合±2 c m 天端幅10mを超える場合は+5 c m-2 c m	様式・出来形14-1 参照 天端高さ又は厚さの管理項目の選定は〈特〉による。 注) 本体がケーソンの場合ケーソン質量 2,000t未満 ±20cm 2,000t以上 ±30cm
	天端幅	スチールテープ等により測定	1スパン3箇所	1 c m	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合±3 c m 天端幅10mを超える場合は+5 c m-3 c m	
	延 長	スチールテープ等により測定	法線上	1 c m	測定表を作成し提出	+規定しない -0	
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	1スパン2箇所	1 c m	測定表を作成し提出	±5 c m 注) 又は〈特〉による。	
ロ) 岸 壁	天端高又は厚さ	レベル、スチールテープ等により測定	1スパン3箇所	1 c m	測定表を作成し提出	±2 c m	天端高又は厚さの管理項目の選定は〈特〉による。
	天端幅	スチールテープ等により測定	1スパン3箇所	1 c m	測定表を作成し提出	±2 c m	
	延 長	スチールテープ等により測定	法線上	1 c m	測定表を作成し提出	+規定しない -0	
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	1スパン2箇所	1 c m	測定表を作成し提出	±3 c m	
	防舷材ベッド	スチールテープ等により測定	スパン毎	1 c m	測定表を作成し提出		

14. 上部工

14-1 上部コンクリート工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
ハ) 棧 橋							14-1 上部コンクリート工 ロ)岸壁を適用する。 梁(高さ、幅)、床版厚は型 枠検査による。

14-2 上部ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 上部ブロック製 作	幅、高さ、 長さ、壁厚	スチールテープ等により 測定	型枠取外し後全数	1 c m	管理表を作成し提 出	幅 +2cm, -1cm 高さ+2cm, -1cm 長さ+2cm, -1cm 壁厚±1cm	
	対角線	スチールテープ等により 測定	型枠取外し後全数	1 c m	管理表を作成し提 出		
2. 上部ブロック据付							
イ) 防波堤							14-1 上部コンクリ ート工 イ)防波堤を適用す る。
ロ) 岸 壁							14-1 上部コンクリ ート工 ロ)岸壁を適用す る。
ハ) 棧橋上部コンク リート							14-1 上部コンクリ ート工 ハ)棧橋を適用す る。

15. 付属工

15-1 係船柱工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 係船柱	天端高	レベルにより測定	据付完了時、中心部、 全数	1 c m	管理表を作成し提 出	曲柱±2 c m 直柱±2 c m	様式・出来形15-1-1 参 照
	岸壁前面に 対する出入	トランシット、スチール テープ等により測定	据付完了時、全数	1 c m	管理表を作成し提 出		
	中心間隔	スチールテープ等により 測定	据付完了時、各スパン 毎中心部、各基	1 c m	管理表を作成し提 出		
	直柱基礎コ ンクリート (幅)	スチールテープ等により 測定	完了時、全数、天端両 端	1 c m	管理表を作成し提 出		

15. 付属工

15-1 係船柱工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 係船柱	(長さ)	スチールテープ等により測定	完了時、全数、前後面	1 c m	管理表を作成し提出		
	(高さ)	レベルにより測定	完了時、全数、中心点	1 c m	管理表を作成し提出		

15-2 防舷材工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 防舷材	取付高さ	レベル又はスチールテープ等により測定	取付完了時、中心部、全数	1 c m	管理表を作成し提出		様式・出来形15-2-1 参照
	中心間隔	スチールテープ等により測定	取付完了時、中心部、全数	1 c m	管理表を作成し提出		

15-3 車止・縁金物工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
車止・縁金物工	天端高	レベルにより測定	取付完了時、中心部、全数	1 c m	管理表を作成し提出		様式・出来形15-3-1 参照
	岸壁前面に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	取付完了後中心部を1点	1 c m	管理表を作成し提出	±3 c m	
	取付間隔	スチールテープ等により測定	上部工1スパンに2箇所	1 c m	管理表を作成し提出		
	塗 装	目視による観察			観察結果を報告		
	警戒色 (シマ模様)	スチールテープ等により測定	完了時適宜		確認結果を報告		

15-4 防食工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
防食工							1-12 防食工を適用する。

15-5 付属設備工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
係船環	天端高	レベルにより測定	取付完了時、中心部、全数	1 c m	管理表を作成し提出	±2 c m	

15-5 付属設備工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
係船環	岸壁前面に対する出入取付位置	トランシット、スチールテープ等により測定	取付完了時、全数	1 c m	管理表を作成し提出		
		スチールテープ等により測定	取付完了時、中心部、全数	1 c m	管理表を作成し提出		

15-6 滑り材工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
滑り材工	取付間隔	スチールテープ等により測定	取付完了時、適宜	1 c m	管理表を作成し提出	<特>による	

16. 消波工

16-1 洗掘防止工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
洗掘防止工							1-4 洗掘防止工を適用する。

16-2 消波ブロック工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 消波ブロック製作	型枠形状寸法（異形ブロック）	観 察	型枠搬入後適宜		観察結果を報告		
	ブロック外観（異形ブロック）	観 察	10個に1個以上測定		観察結果を報告		
2. 消波ブロック据付	延長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上（最上段のみ）	10 c m	管理表を作成し提出		

17. 裏込・裏埋工

17-1 裏込工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 裏込（均しを行わない面）	天端高	レベル、レッドにより測定	測線及び測点間隔は10m以下	陸上 1 c m 水中 10 c m	出来形図を作成し提出	<特>による。	
	法 面	レベル、レッドにより測定	測点は3点以上	10 c m	出来形図を作成し提出	<特>による。	
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下	10 c m	出来形図を作成し提出	<特>による。	

17. 裏込・裏埋工

17-1 裏込工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 裏込 (均しを行わない面)	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	天端中心上又は監督職員の指示による。	10 c m	出来形図を作成し提出	〈特〉による。	
2. 裏込均し	天端面	レベル、レッドにより測定	測線及び測点間隔は10m以下	陸上 1 c m 水中 10 c m	出来形図を作成し提出	±20 c m	
	法 面	レベル、レッドにより測定	測点は3点以上	10 c m	出来形図を作成し提出	±20 c m (法面に直角)	マット等を使用する場合を含む。
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下	10 c m	出来形図を作成し提出	+規定しない -10 c m	
	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	天端中心上又は監督職員の指示による。	10 c m	出来形図を作成し提出	+規定しない -10 c m	
3. 吸出し防止材	敷設位置	スチールテープ、間縄等により測定	始、終端及び変化する箇所毎並びに20mに1箇所以上	10 c m	測定表及び敷設図を作成し提出	〈特〉による。	様式・出来形1-4-1 参照 アスファルトマット、繊維系マット、合成樹脂系マット
	重ね幅	スチールテープ等により測定	1枚に2点	1 c m	測定表及び敷設図を作成し提出	50 c m以上(アスファルトマット・繊維系マット) 30 c m以上(合成樹脂系マット)	
	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	マットの中心を区間毎及び全長	10 c m	測定表及び敷設図を作成し提出	+規定しない -10 c m	

17-2 裏埋工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
裏埋	地盤高 (陸上部)	レベル等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	1 c m	平面図に実測値を記入し提出	〈特〉による。	変化点は測定する。
	(水中部)	レベル、レッド及び音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	10 c m	平面図に実測値を記入し提出	〈特〉による。	変化点は測定する。

17-3 裏埋土工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 土砂掘削 2. 土砂盛土	地盤高	レベル等により測定	法肩、法尻及び中心を延長20mに1箇所以上	1 c m	測定表を作成し提出	〈特〉による。	様式・出来形17-3-1 参照
	幅	スチールテープ等により測定	延長20mに1箇所以上	10 c m	測定表を作成し提出	〈特〉による。	

17-3 裏埋土工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 土砂掘削 2. 土砂盛土	法長	スチールテープ等により測定	延長20mに1箇所以上	10cm	測定表を作成し提出	〈特〉による。	
	延長	スチールテープ等により測定	両端及び中心	10cm	測定表を作成し提出		

18. 陸上地盤改良工

18-1 圧密・排水工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
圧密・排水工							1-1 圧密・排水工を適用する。

18-2 締固工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
締固工							1-2 締固工を適用する。

18-3 固化工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
固化工							1-3 固化工を適用する。

19. 土工

19-1 掘削工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 土砂掘削							17-3-1 土砂掘削を適用する。

19-2 盛土工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 土砂盛土							17-3-2 土砂盛土を適用する。

19-3 路床盛土工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 路床盛土	高さ	レベル等により測定	舗装は中心及び両端部の3点を延長20mに1箇所、道路舗装は中心及び両端部の3点を延長40mに1箇所	1cm	測定表を作成し提出	±5cm	
	幅	スチールテープ等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない -10cm	
	延長	スチールテープ等により測定	両端2箇所	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない -0	

19-4 法面工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 法面							17-3-1土砂掘削、17-3-2土砂盛土及び1-15植生工を適用する。

20. 舗装工

20-1 コンクリート舗装工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
コンクリート舗装工							1-13 コンクリート舗装工を適用する。

20-2 アスファルト舗装工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
アスファルト舗装工							1-14 アスファルト舗装工を適用する。

21. 維持補修工

21-1 維持塗装工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 係船柱塗装	塗装箇所	目視（承諾された図面より確認）	塗装完了後、全数		確認結果を提出	〈特〉による。	
2. 車止塗装							
イ) 鋼 製	塗装箇所	目視（承諾された図面より確認）	塗装完了後、全数		確認結果を提出	〈特〉による。	
ロ) その他	塗装箇所	目視（承諾された図面より確認）	塗装完了後、全数		確認結果を提出	〈特〉による。	
3. 縁金物塗装							21-1-2.——車止塗装を適用する。

21-2 防食工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
防食工							1-12 防食工を適用する。

22. 魚礁工

22-1 魚礁製作工・単体魚礁製作

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 単体魚礁製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後10基に1基以上測定	1 c m	管理表を作成し提出	幅 +2cm, -1cm 高さ+2cm, -1cm 長さ+2cm, -1cm 壁厚±1cm	様式・出来形23-1参照
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後10基に1基以上測定	1 c m	管理表を作成し提出		
	型枠形状寸法	観 察		型枠搬入後適宜		観察結果を報告	
	ブロック外観	観 察		全数		観察結果を報告	

22-2 魚礁製作工・組立魚礁製作

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. コンクリート部材組立	幅、高さ、長さ	スチールテープ等により測定	10基に1基以上測定	1mm	管理表を作成し提出	幅、高さ、長さ +10mm×部材連数 - 5mm×部材連数	様式・出来形23-2参照
	ボルトの取付け	観 察	全箇所		観察結果を報告		
	ボルトの締付け	トルクレンチ等による測定	〈特〉による	〈特〉による	管理表を作成し提出	〈特〉による。	
2. 鋼製部材組立	幅、高さ、長さ	スチールテープ等により測定	10基に1基以上測定	1mm	管理表を作成し提出	幅 +30mm, -10mm 高さ+30mm, -10mm 長さ+30mm, -10mm	
	のど厚、脚長、溶接長	スチールテープ、ノギス、溶接ゲージ等により測定	〈特〉による。	1mm	測定表を作成し提出	〈特〉による。	
	有害な欠陥の有無	観 察	全 数		観察結果を報告		
	溶接部非破壊試験	JIS Z 3104放射線透過試験の他、〈特〉による。	〈特〉による。		写真又はフィルムを提出	〈特〉による。	
		カラーチェック	〈特〉による。		写真を提出	〈特〉による。	
3. FRP部材組立	幅、高さ、長さ	スチールテープ等により測定	10基に1基以上測定	1mm	管理表を作成し提出	〈特〉による。	様式・出来形23-2参照
	接続帯の取付け	観 察	接続終了後、全箇所		観察結果を報告	〈特〉による。	
4. 重錘コンクリート製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	10基に1基以上測定	1cm	管理表を作成し提出	幅 +3cm, -1cm 高さ+3cm, -1cm 長さ+3cm, -1cm	

22-3 魚礁沈設工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 魚礁沈設	位置集中配置(乱積配罫)	G N S S及びD-G N S S等により測定	魚礁沈設時に10基に1基以上測定	緯度経度公共座標	管理表を作成し提出	配置中心点:±30m その他は〈特〉による。	様式・出来形23-3参照
	位置ゾーン配置	G N S S及びD-G N S S等により測定	魚礁沈設時に10基に1基以上測定	緯度経度公共座標	管理表を作成し提出	ゾーン内 ゾーン配置:重ならないこと、その他は〈特〉による。	

22-3 魚礁沈設工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 魚礁沈設	位置 計画配置 (相対配置)	G N S S 及び D-G N S S 等により測定	魚礁沈設時に全基測定	緯度経度 公共座標	管理表を作成し提出	±30m 計画配置：重ならないこと、その他は〈特〉による。	
	高さ	音響測深器等により測定	集中配置、ゾーン配置は中心点から8方位を測定 計画配置は〈特〉による。	10 c m	出来形図を作成し、記録紙にも寸法を表示し提出	集中配置： + 規定しない - 0 (Hは魚礁1基の高さ)	集中配置：最高部の許容範囲
	長さ、幅	音響測深器等により測定	集中配置、ゾーン配置は中心点から8方位を測定 計画配置は〈特〉による。	10 c m	出来形図を作成し、記録紙にも寸法を表示し提出	〈特〉による。	

23. 増殖場工

23-1 着定基質製作工・単体着定基質製作

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 着定基質製作	型枠形状寸法 (異形ブロック)	観 察	型枠搬入後適宜		観察結果を報告		魚礁タイプは、22. 魚礁工を適用する。
	ブロック外観 (異形ブロック)	観 察	全 数		観察結果を報告		

23-2 着定基質製作工・組立着定基質製作

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 着定基質組立							22-2 魚礁製作工・組立魚礁製作を適用す

23-3 着定基質設置工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 着定基質設置	位置 計画配置 (相対配置)	G N S S 及び D-G N S S 等により測定	着定基質設置時に全基 測定	緯度経度 公共座標	管理表を作成し提出	±30m 重ならないこと、 その他は〈特〉に よる。	様式・出来形23-3 (計 画配置) 参照
	長さ、幅	音響測深器等により測定	〈特〉による。	10 c m	出来形図を作成 し、記録紙にも寸 法を表示し提出	〈特〉による。	
	天端高	音響測深器等により測定	〈特〉による。	10 c m	出来形図を作成 し、記録紙にも寸 法を表示し提出	重ならないこと、 その他は〈特〉に よる。	

23-4 石材着定基質

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 石材投入	投入位置	G N S S 及び D-G N S S 等により測定	〈特〉による。	緯度経度 公共座標	管理表を作成し提出	±30m	様式・出来形24-41参照
	長さ、幅	音響測深器等により測定	各3測線以上	10 c m	出来形図を作成 し、記録紙にも寸 法を表示し提出	〈特〉による。	様式・出来形24-41参照

24. 構造物撤去工

24-1 取壊し工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. コンクリート取 壊し	幅、高さ、 延長	トランシット、スチール テープ等により測定	〈特〉による。	〈特〉による。	管理表を作成し提出	〈特〉による。	
	外 観	目視又は潜水土による観 察	〈特〉による。		観察結果を報告	〈特〉による。	

24-2 撤去工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 水中コンクリー ト撤去	幅、高さ、 延長	トランシット、スチール テープ等により測定	〈特〉による。	〈特〉による。	管理表を作成し提出	〈特〉による。	
	外 観	潜水土による観察	〈特〉による。		観察結果を報告		

24-2 撤去工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
2. 鋼矢板等切断撤去	幅、高さ、延長	スチールテープ等により測定	〈特〉による。	1 c m	測定表を作成し提出 観察結果を報告	〈特〉による。	
	外観	目視又は潜水土による観察	〈特〉による。				
3. 腹起・タイ材撤去	形状寸法	スチールテープ等により測定	〈特〉による。	〈特〉による。	測定表を作成し提出 観察結果を報告	〈特〉による。	
	外観	目視又は潜水土による観察	〈特〉による。				
4. 舗装版撤去	幅、高さ、延長	トランシット、スチールテープ等により測定	〈特〉による。	〈特〉による。	管理表を作成し提出 観察結果を報告	〈特〉による。	
	外観	目視による観察	〈特〉による。				
5. 石材撤去	幅、高さ、延長	トランシット、スチールテープ等により測定	〈特〉による。	〈特〉による。	管理表を作成し提出 観察結果を報告	〈特〉による。	
	外観	目視又は潜水土による観察	〈特〉による。				
6. ケーソン撤去	形状寸法	スチールテープ等により測定	〈特〉による。	〈特〉による。	測定表を作成し提出 観察結果を報告	〈特〉による。	
	外観	目視又は潜水土による観察	〈特〉による。				
7. ブロック撤去	形状寸法	スチールテープ等により測定	〈特〉による。	〈特〉による。	測定表を作成し提出 観察結果を報告	〈特〉による。	
	外観	目視又は潜水土による観察	〈特〉による。				
8. 鋼矢板・H形鋼杭引抜き撤去	形状寸法	スチールテープ等により測定	〈特〉による。	1 c m	測定表を作成し提出 観察結果を報告	〈特〉による。	
	外観	目視又は潜水土による観察	〈特〉による。				

25. 仮設工

25-1 仮設鋼矢板工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 仮設鋼矢板・H形鋼杭	矢板天端高	レベル等による測定	打込完了時、20枚に1枚（H形鋼杭は全数）	1 c m	管理表を作成し提出	±10 c m	
	根入長	レベル等による測定	打込完了時、20枚に1枚（H形鋼杭は全数）	10 c m	管理表を作成し提出	+規定しない -0	

25-2 仮設鋼管杭・鋼管矢板工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 先行掘削							1-8-1 先行掘削を適用する。 (任意仮設は除く)
2. 仮設鋼管杭・鋼管矢板工							1-8-2 鋼矢板式の鋼管矢板及び1-10-2 鋼杭を適用する。 (任意仮設は除く)

25-3 仮設道路工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 仮設道路工							1-13 コンクリート舗装工及び1-14 アスファルト舗装工を適用する。

26. 雑工

26-1 現場鋼材溶接工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 現場鋼材溶接	形状寸法 (のど厚、脚長、溶接ひずみ) 有害な欠陥の有無	スチールテープ、ノギス、溶接ゲージ等により測定	適宜	1mm	測定表を作成し提出	〈特〉による。	様式・出来形27-1参照
		目視による観察	全数		観察結果を報告		
		目視による観察	適宜		観察結果を報告		
2. 被覆溶接(水中)	形状寸法 (のど厚、脚長、溶接長等) 外観	スチールテープ、ノギス、溶接ゲージ等により測定	適宜	1mm 溶接長は1cm	測定表を作成し提出	〈特〉による。	
		潜水士による観察	全数		観察結果を報告		
3. スタッド溶接(水中)							26-1-2 被覆溶接(水中)を適用する。

26-2 現場鋼材切断工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 現場鋼材切断 g	形状寸法	スチールテープ等により測定	全数	1mm	測定表を作成し提出	〈特〉による。	
	外観	目視による観察	全数		観察結果を報告		
口)水中切断	形状寸法	スチールテープ等により測定	全数	1mm	測定表を作成し提出	〈特〉による。	
	外観	目視又は潜水土による観察	全数		観察結果を報告		

26-3 その他雑工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 清掃	幅、長さ、延長	スチールテープ等により測定	全数	1mm	測定表を作成し提出	〈特〉による。	
	外観	目視又は潜水土による観察	全数		観察結果を報告		
2. 削孔	形状寸法	スチールテープ等により測定	全数	1mm	測定表を作成し提出	〈特〉による。	
	外観	目視又は潜水土による観察	全数		観察結果を報告		

27. 浚渫工

27-1 ポンプ浚渫工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. ポンプ浚渫	水深 (底面)	音響測探機、レッド又はレベル等により測定	〈特〉による。	10cm	業務共通仕様書2-2-5、6. 平面図に実測値を記入し提出	+0 -規定しない 又は〈特〉による。	様式・出来形28-1参照 +；設計値より浅いことをいう。 -；設計値より深いことをいう。
	(法面)	音響測探機、レッド又はレベル等により測定	〈特〉による。	10cm	業務共通仕様書2-2-5、6. 平面図に実測値を記入し提出		

27-2 グラブ浚渫工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. グラブ浚渫							27-1-1. ポンプ浚渫を適用する。

27-3 硬土盤浚渫工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 硬土盤浚渫							27-1-1 ポンプ浚渫を適用する。

27-4 岩盤浚渫工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 砕岩浚渫							27-1-1 ポンプ浚渫を適用する。

27-5 バックホウ浚渫工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. バックホウ浚渫							27-1-1 ポンプ浚渫を適用する。

28. 埋立工

28-1 固化工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
固化工							1-3 固化工を適用する。

28-2 埋立土工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 土砂掘削							17-3-1 土砂掘削を適用する。
2. 土砂盛土							17-3-2 土砂盛土を適用する。

29. 道路舗装工

29-1 コンクリート舗装工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
コンクリート舗装工							1-13 コンクリート舗装工を適用する。

29-2 アスファルト舗装工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
アスファルト舗装工							1-14 アスファルト舗装工を適用する。

29-3 道路付属工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 縁 石	高 さ	レベルにより測定	監督職員の指示による。	1 c m	測定表を作成し提出	±3 c m	
	総延長	スチールテープ等により測定	図面に記載する箇所	1 c m	測定表を作成し提出	+規定しない -5 c m	
2. 区画線及び道路標示	幅	スチールテープ等により測定	監督職員の指示による。	1 c m	測定表を作成し提出	±1 c m	
	長 さ	スチールテープ等により測定	監督職員の指示による。	1 c m	測定表を作成し提出	±10 c m	
3. 道路標識	高 さ	スチールテープ等により測定	1箇所に1回	1 c m	測定表を作成し提出	±5 c m	
4. 防護柵	高 さ	スチールテープ等により測定	監督職員の指示による。	1 c m	測定表を作成し提出	+3 c m -2 c m	
	総延長	スチールテープ等により測定	図面に記載する箇所	1 c m	測定表を作成し提出	+規定しない -10 c m	

30. 緑地工

30-1 植生工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
植生工							1-15 植生工を適用する。